やりゅうてぇ⑧

旧正月に物部川河川敷で行われる凧揚げ大会。百畳凧が勇壮に空を舞う姿は野市町の風物詩となっています。今回は土佐凧を愛し、百畳凧を揚げることに熱意を燃やす**野市土佐凧保存同好会**を紹介します。

百畳凧は昭和五十七年ごろに制作した十六畳の凧から始まり、より大きな凧へと挑戦し、ついに畳百畳もの大きさになりました。

野市町合併二〇周年の凧揚げイベントから発足した「野市土佐凧保存同好会」は今年で三十二年。会員は約三十数人で、二十歳から七十歳代の幅広い年齢の凧好きが集まっています。

昨年の凧が揚がる様子

百畳凧を揚げるときは、凧に十人、引き手に二十人と交代役をいれて八十人ほど必要です。会員だけでなく、会場にいる大勢のギャラリーも一体となって凧揚げを手伝います。

凧を支える命綱のチモトは凧の大きな体を上空でも操れるように、三百キロ級のマグロを釣るロープを使用しています。

昨年、凧は強風にあおられ、ほんの数分浮いただけで落下しました。

どこまで折れているか親骨を確認

軽い凧を作るために何年も乾燥させた竹で作ったブンブ（横骨）も上空で折れ、落下した衝撃で親骨の芯まで折れてしまいました。

一月の旧正月凧揚げ大会に向け、十一月から起死回生を願う会員らの手によって、百畳凧の修理が始まりました。

今回の修理は大がかりで親骨の芯が折れていた凧の損傷部分を探しながら、一人ひとりが紙や針金を外しては手を止め、解体修理していきます。凧に張った和紙には直接下描きができません。米を紙の上に置いて武者絵の形を取り、色塗りの下地にするなど、会員の知恵や昔ながらの手法によって進められています。

作業場（森田館）いっぱいの百畳凧

直したあとの凧は良く揚がるというジンクスを持つ同好会。「今年は昨年の傷をいたわるように、ゆっくりと大空の舞台で泳がしてやりたい」と同好会会長の鈴木勢さんは会員みんなの思いを語っていました。

▼修理中の凧を見つめる鈴木さん

編集後記

▼あけましておめでとうございます！

昨年は合併し、初めての地域へ出かけることが多かった一年でした。取材でお会いした地域の皆さん！たくさんの笑顔とご協力をありがとうございました。

今年も、住民の皆さんと行政をつなぐ広報を目指していきたいと思いますので、どこかでお会いした時は声をおかけください。

▼昨年は、自分の体力のなさを感じた年なので、今年は、なにか運動を始めたいと思います。（松）

▼雨ニモ負ケズ　日焼ケニモ負ケズ「一笑懸命(^^)」頑張ります！（井）

▼昨年の反省を生かし、イノシシのように前進できる年になりますように！（N）

お詫びと訂正

《12月号》スポーツトピックスの「空手」の細川菜々さんのお名前を表記し間違いました。お詫びして訂正いたします。

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

香南市広報「こうなん」平成十九年一月一日発行
編集・香南市広報編集委員会　発行・香南市役所
〒781－5292　高知県香南市野市町西野二七〇六　TEL（〇八八七）五六－〇五一一